



# Newsletter

vol.29

「ぴあ・かもみーる」日記⑩●

性教育講座●

ボランティア養成講座●



パオの  
現いま

## 「ぴあ・かもみーる」日記 ⑩

私がパートナー弁護士としてパオの子どもたちと関わるようになってもうすぐ4年になります。

初めて担当した子とはもう4年の付き合いになりますがこの春から大学生になりました。彼女は、ステップハウス「ぴあ・かもみーる」に入った後に単位制の高校に入学しました。「ぴあ・かも」を卒業してからは、一人暮らしをしてアルバイトをしながら学校に通っていました。そして見事に高校を卒業し、なんと大学にも合格したのです。学費など必要な費用は給付制の奨学金が利用できました。彼女は「大学は親に学費を出してもらえる子だけが行くものだと思っていたけど、私にも行ける道があったんだね、嬉しい!」ととっても喜んでいて、彼女が「ぴあ・かも」に来た時には想像もできませんでした。彼女の力強さを感じます。

次に担当した子は、コロコロとよく笑う、笑顔のとても可愛い子。「ぴあ・かも」のムードメーカーでした。彼女は「ぴあ・かも」にいるころから介護の仕事を頑張っていました。そして「ぴあ・かも」を卒業した後も働きながら一人暮らしをして続けています。介護の仕事は体力的にも精神的にも大変な仕事だと思います。就職した当初は、3カ月続けることが目標と言っていた彼女ですが、今では上司からの信頼も厚く、どんどん責任ある仕事を任せられるようになっていきます。

彼女たちとは、「ぴあ・かも」卒業後もときどき、それぞれに会って一緒に食事をしたり相談に乗ったりしています。私は、毎回、彼女たちの笑顔を見るのがとても楽しみでなりません。何より嬉しいことは、2人とも口癖のように「ぴあかもは本当にあったかかったなあ。」「ぴあか

もに入れて本当に良かった!」と言ってくれることです（この2人同士は顔を合わせたことはありません）。また「〇〇さんのお味噌汁は絶品だったなあ。」「〇〇さんの手作りパンが食べたくなるなあ。」など、スタッフの作ってくれた料理を懐かしむこともしばしば。彼女たちにとって、「ぴあ・かも」での生活は温もりや安心を感じることができる場所になることができたんだなあ、と感じています。

そして、昨年の夏からは3番目の子を担当しています。彼女を担当するようになってから、いろいろ考えさせられることがありました。自分が無力だと落ち込むこともあります。

けれど、パオでは子どもに関わるスタッフ、事務局、運営委員とパートナー弁護士が児童相談所やその他の関係機関とも連携を取りながら、みんなで知恵を出し合っって子どものサポートを考えていきます。ひとりひとりの子どもに、たくさんの大人が伴走しているイメージです。現在担当している子についても、彼女に合った自立ができるように、みんなで作戦会議を続けています。

子どもたちにとって、「ぴあ・かも」での生活が温もりや安心を感じてもらえる場所になることを願いつつ、試行錯誤の毎日ですが、これからもパートナー弁護士として彼女たちに関わっていきたいと思います。(S)

